

五 アジアの終戦

1 各国への終戦通報

1105

昭和20年8月10日

東郷外務大臣より
在満州国山田大使、在中国谷大使、
在タイ山本大使宛(電報)

ポツダム宣言受諾につきアジア各国駐在大使
へ内報

本省 8月10日後10時15分発

合第六五三號(緊急、館長符號)

今般帝國政府ニ於テハ内外ノ諸情勢ト帝國ノ前途ニ關シ深ク省察ヲ加ヘタル結果速ニ戰爭ノ慘禍ヨリ人類ヲ救ハンコトヲ祈念シ給フ 天皇陛下ノ大御心ニ副ヒ奉ランカ爲別電

(六五九カ)編出

合第六五四號ノ通瑞西及瑞典國政府ヲ通シ米英「ソ」支四

國ニ通報スルト共ニ在京「ソ」聯大使ニ對シ別途直接同趣旨ノ申入ヲ行ヘリ右差當リ貴大使限リ御含迄尙貴任國政府ニ對スル本件傳達ニ關シテハ追電ス

本電及別電宛先 滿、支、タイ、ビルマ^(マヤ)

別電ト共ニ參考トシテ西頁、河内ニ轉電セリ

編注 本書第1088
本書別電と同文のため省略。



1106

昭和20年8月11日

東郷外務大臣より
在満州国山田大使、在中国谷大使、
在タイ山本大使宛(電報)

ポツダム宣言受諾の旨を任国政府へ内報方訓令

本省 8月11日後2時発

合第六五九號(緊急、館長符號扱)

往電合第六五三號ニ關シ

貴任國政府ニ對スル信義上右往電内容ヲ即時貴任國政府ニ内報スルト共ニ大東亞解放ノ爲帝國ト相提携シテ共同戰爭ノ完遂ニ邁進セラレタル眞摯ナル協力ニ對シ帝國政府ノ深甚ナル謝意ヲ傳達セラレ度尙今后帝國政府ノ執ルヘキ措置ニ關シテハ必要ニ應シ追電スヘキモ貴任國政府首脳部ノ希望等充分御聽取置相成度

(尚本件陸海軍ノ同意ヲ得居ラサルニ付キ爲念)

本電宛先 滿、支、泰、「ビルマ」

西貢、河内ニ參考トシテ轉電セリ

本大臣訓令トシテ冒頭往電、同別電竝ニ本電可然蜂谷公使ニ泰ヨリ轉報相成度

1107

昭和20年8月11日

東郷外務大臣より
在滿州国山田大使、在中国谷大使、
在タイ山本大使宛(電報)

ポツダム宣言受諾にあたっては原子爆弾の問

題も考慮に含まれた旨通報

本省 8月11日後2時発

合第六六一號(緊急、館長符號扱)

往電合第六五九號ニ關シ

往電合第六五三號冒頭「内外諸情勢」ノ中ニハ原子爆弾ノ

問題ヲモ含ミ居ルコト勿論ナリ右内報ニ際シ御參考迄爲念

本電宛先及轉電先冒頭往電ノ通り

冒頭往電通り轉報相成度

1108

昭和20年8月14日

東郷大東亞大臣より
在中国谷大使、在北京楠本公使他宛
(電報)

ポツダム宣言受諾をふまえての現地機構及び

在留邦人保護に関する訓令

別電

昭和二十年八月十四日發東郷大東亞大臣より在
中国谷大使、在北京楠本公使他宛合第七一六号

右訓令に基づく応急措置腹案

本省 8月14日發

合第七一五號(緊急)

帝國政府ニ於テハ 天皇陛下ノ一般的平和克復ニ對スル御

祈念ニ基キ戰爭ノ慘禍ヲ出來得ル限り速ニ終止セシメンコ

トヲ欲シ七月二十六日米、英、支三國政府首腦者ニ依リ發

表セラレ爾後「ソ」ノ參加セル共同宣言ノ條件ヲ了解ヲ附

シ受諾スルコトニ決セリ

御詔勅本日發表ノ模様ナルカ右ノ場合追電ス

今後如何ナル困難發生スルカ如キ際ニモ事態ノ推移ニ伴ヒ

各大使以下大東亞省出先職員ハ大御心ノ程ヲ深く體シ職責

ノ完遂ニ邁進セラレ度ク且又現地居留民ノ指導保護ニ付テ

ハ今後事態極メテ困難ヲ加フルニ至ルヘキハ想像ニ難カラ

サル處帝國政府今次ノ措置カ仁慈ノ大御心ニ出ツル所以ヲ篤ト説示相成リ率先垂範飽ク迄モ帝國臣民トシテ規律アル行動ヲ執ラシムルト共ニ徒ニ失意ニ陥ラシムルコトナク凡有ル困苦ニ耐ヘ今後長キニ巨ル時艱克復ノ鬪志ヲ新タナラシムル如ク御指導相成度ク當方ニ於テ作成セル別電合第七一六號應急措置腹案御參酌ノ上遺憾無キ様善處セラレ度御心勞ノ程ハ重々察セラルルモ大使以下各員ノ御奉公ヲ切ニ期待スル次第ナリ

本電竝ニ別電宛先 支、在支四大使館事務所長、在支總領事館、領事館、「タイ」、「ハノイ」、西貢

別電ト共ニ「タイ」ヨリ「ビルマ」ヘ轉報有度ク「シンゴラ」、「チエンマイ」、「プラタボン」ヘ轉電アリ度、西貢ヨリ「ブノンペン」、順化、海防ヘ轉電アリ度

(別電)

本省 8月14日發

合第七一六號(館長符號扱、緊急)

大使初メ出先公館職員ハ大御心ヲ體シ政府ノ方針ニ從ヒ率先垂範シ最後迄職責ノ完遂ニ任シ且居留民ノ保護指導ニ付

萬全ノ措置ヲ講ス

(一)大東亞省出先公館ニ於ケル措置

(イ)御眞影、御紋章ノ取扱ニ付萬全ノ措置ヲ採ル

(ロ)機密文書、電信符號、暗號機械ハ狀況ニ依リ遲滯ナク

毀却ス

(二)居留民ニ對スル措置

一、一般方針

(イ)帝國カ今次措置ヲ採ルノ已ムナキニ至リタル事情ニ

付周到懇切ニ説示スルト共ニ大御心ニ從ヒ冷靜沈着

皇國民トシテ恥スルナキ態度ヲ以テ時艱ニ善處スル

如ク指導ス

(ロ)居留民ハ出來得ル限り定着ノ方針ヲ執ル

(ハ)居留民ノ生命財産ノ保護ニ付テハ萬全ノ措置ヲ講ス

二、具體的措置

(イ)大使ヨリ御詔勅ヲ奉戴シ全居留民ニ對シ諭告ヲ發シ

新局面ニ即應スル心構ヲ徹底セシム

(ロ)僻地ノ居留民ハ適當ノ地ニ集結ス

(ハ)必要ニ應シ我方利益代表國又ハ赤十字社等ニ對シ保

護ヲ依頼スル等ノ措置ニ付研究ス

尙特ニ支那ニ在リテハ帝國民間人、地方官憲等ノ協力活用ヲ考慮ス

(二)公共企業(鐵道電燈、水道等)公共施設機關(同仁會診療班、中國側統制團體等)ノ從業邦人ハ狀況許ス限り職場ニ在リテ運營ノ繼續ニ當ルモノトス

(ホ)顧問竝ニ海關、郵政、鹽政及市政府其ノ他中國側被雇傭邦人ノ措置ニ付テハ追テ何分ノ指示アル迄狀況許ス限り從來通り從事セシム

(ハ)居留民食糧準備及生計救濟ニ付テハ特ニ遺憾ナキヲ期スルモノトシ現地軍ト連絡ノ上相當期間ノ食糧ヲ確保シ生計ニ付テハ共同計算ヲモ研究セシメ貧困者ニ付テハ民團、民會ニ於テ應急救濟セシム

(ト)居留民ノ財産ニ付テハ出來得ル限り保護ノ措置ヲ講ス

引揚地ノ殘留財産ニ付テハ地方官憲ニ依頼シ保護方ヲ依頼ス

(チ)本島人及半島人ニ對スル措置トシテハ追テ何等ノ指示アル迄ハ從來通りトシ虐待等ノ處置ナキ様留意ス

1109 昭和20年8月14日
東郷大東亞大臣より
在滿州国山田大使、在中國谷大使、
在タイ山本大使他宛(電報)

任国政府要人の内地移送につき訓令

本省 8月14日發

台第七一七號(緊急)

外務大臣發合第六五九號ニ關シ

責任國要人及家族ニ關スル措置ニ付我方トシテハ本人ノ希望アラハ一定範圍ノモノノ内地等ヘノ移行ニ對シ事情ノ許ス限り便宜ヲ取計フヘク又今後ノ生活保障トシテ要スレハ資金又ハ物資ノ提供等ヲナスヘキニ付軍側トモ協議ノ上可然措置セラレ度

本電宛先 滿、支、タイ、ビルマ

參考トシテ西貢、河内ヘ轉電セリ

1110 昭和20年8月15日
東郷外務大臣より
在滿州国山田大使、在中國谷大使、
在タイ山本大使宛(電報)

終戦決定に關し任国政府へ謝意伝達方訓令

本省 8月15日前0時發

台第六六七號(緊急)

往電合第六五九號ニ關シ

一、八月十四日御前會議ニ於テ八月十日附帝國政府ノ通告ニ

對スル米英蘇支四國政府ノ回答(別電第六六九號)^(編注)ニ依リ

「ポツダム」共同宣言ガ國体ニ變更ヲ加ヘントスルモノ

ニアラザルコトノ認定ヲ見タル後帝國政府ハ四交戰國政

府ニ對シ別電第六七〇號^(編注)ノ通告ヲ發セリ又畏クモ 天皇

陛下ニ於カセラレテハ八月十四日深更終戰ニ關スル大詔

ヲ發セラレタリ(東京ニ於ケル大詔ノ放送ハ十五日正午

ノ予定ナルニ付現地ニ於ケル大詔ノ發表ハ右放送以後ニ

セラレ度)

二、就テハ右御含ノ上大詔ノ御趣旨ニ遵ヒ更メテ貴任國政府

ニ對シ帝國政府ノ苦衷竝ニ貴任國朝野ノ從來ノ協力ニ對

スル我方ノ深厚ナル謝意ヲ表シ併セテ貴任國ノ隆盛ヲ祈

リ居ル旨傳達相成度

本電及別電宛先 滿、支、泰、「ビルマ」^(マ)

泰ヨリ本大臣訓令トシテ蜂谷公使ニ轉報アリ度

參考トシテ西貢、河内ニ轉電セリ

編注一 本書第1093文書付記一と同文のため省略。

編注二 本書第1096文書別電一と同文のため省略。

1111 昭和20年8月24日 重光外務大臣より、
在滿州国山田大使、在中国谷大使、
在タイ山本大使他宛(電報)

連合国軍からの命令事項のうち「大東亜」地域に関する事項について

別電 昭和二十年八月二十四日發重光外務大臣より

在滿州国山田大使、在中国谷大使、在タイ山

本大使他宛合第六八三號

右命令事項

本省 8月24日發

合第六八二號(緊急)

帝國政府ハ「ポツダム」宣言ノ條項受諾後聯合國側ノ要求

ニ應ジ參謀次長河邊虎四郎陸軍中將ヲ全權委員トシテ隨員

ヲ帶同「マニラ」ニ派遣シ聯合國側ト會談セシメタルカ右

會談ニ於テ聯合國側ハ帝國全權委員ニ對シ差當リ帝國ノ執

ルヘキ處置ニ付各般ノ指令ヲ文書ニテ手交セル處右ノ中大

東亞地域ニ關係アル重要事項要旨別電第六八三號ノ通ナル

ニ付軍側トモ連絡ヲ密ニシ委細右ニ準據セラレ度尙詳細ハ

軍中央ヨリ夫々現地軍へ指令アル筈ナリ

本電宛先 滿大、支大、在支四大使館事務所、在支總領

事館、河内、西貢、泰、朝鮮總督府、臺灣總

督府

別電ト共ニ本大臣ノ訓令トシテ泰ヨリ緬甸へ

「轉報アリタク、「シンゴラ」、「プラタボン」、

「チェンマイ」ニ轉電アリ度

河内ヨリ海防へ、西貢ヨリ順化、「プノンペ

ン」へ轉電アリ度

(別電)

本省 8月24日発

台第六八三號(緊急)

一、帝國政府及大本營ハ其文武官憲力降伏條項ノ爲必要ナリ

トシテ聯合國側ニ依リ發セララルル一切ノ宣言、命令及指

圖ニ從ヒ之ヲ實行スルト共ニ聯合國側ニ依リ特ニ免除セ

ラレサル限り現在ノ任ニ止リ非戰鬪的職務ヲ續行スル様

指令スヘシ

三、大本營ハ全日本軍及日本軍支配下ノ軍隊全部ニ對シ停戰

ヲ命シ米英「ソ」支四ヶ國ヲ代表スル諸司令官ニ對シ無
條件ニ降伏スル様命令スヘシ

三、日本軍ノ各高級司令官及總テノ陸海空軍及補助部隊ニシ

テ

(イ)支那(滿洲ヲ除ク)臺灣及ヒ北緯十六度以北ノ佛印内ニ

アルモノハ蔣介石ニ對シ

(ロ)滿洲、北緯三十八度以北ノ朝鮮、樺太及千島列島ニア

ルモノハ極東ニ於ケル「ソ」聯軍總司令官ニ對シ

(ハ)「アングマン」、「ニコバル」諸島、緬甸、泰國、北緯

十六度以南ノ佛印、「マレー」、「ボルネオ」、蘭領印度、

「ニューギネア」、「ビスマルク」諸島及「ソロモン」

諸島ニアルモノハ東南亞細亞方面聯合國最高司令官及

濠洲軍司令官ニ對シ

(ニ)日本委任統治諸島、琉球、小笠原及其ノ他大平洋諸島

ニアルモノハ米國大平洋艦隊司令長官ニ對シ

(ホ)日本本島附屬島嶼、北緯三十八度以南ノ朝鮮及「フィ

リッピン」ニアルモノハ大平洋方面米國陸軍總司令官

ニ對シ

降服スヘシ

四、前記(イ)(ロ)(ニ)及(ホ)項ニ示サレタル諸司令官ノミカ日本軍ノ降服ヲ受クルノ權限ヲ有スル聯合國ノ代表ニシテ日本軍ノ降服ハ凡テ前記司令官又ハ其代表者ニ對シテノミ爲サルヘキモノトス

五、大本營ハ在日本及在外諸司令官ニ命令ヲ發シ其ノ駐屯場所ノ如何ヲ問ハス總テノ日本軍隊及ヒ其支配下ニ在ル軍隊ヲシテ完全武裝解除ノ上前記聯合國諸司令官ノ指示スヘキ時期竝ニ場所ニ於テ一切ノ武器及裝備ヲ現狀ノ儘破損スルコトナク良好ナル狀態ニ於テ引渡サシムヘシ

六、日本及日本支配下ノ文武責任當局ハ聯合國最高司令官ヨリ更ニ指示アル迄ノ間左記物件ヲ現狀ノ儘且良好ナル狀態ニ於テ保持スヘシ

(イ) 一切ノ武器彈藥、爆發物、軍用裝備、貯藏品及補給品
其他一切ノ軍用器材

(ロ) 一切ノ陸上、水上及空中輸送及通信施設

(ハ) 飛行場、飛行艇基地、防空陣地、港灣、海軍基地、補給品貯藏所、恒久及臨時的ノ陸上及沿岸要塞及其他要塞地帶ヲ含ム一切ノ軍事施設

(ニ) 一切ノ工場、製作所、研究所、試驗所、技術上ノ資料、

特許權、軍用器材其他軍又ハ半軍事的機關ノ使用品ヲ生産シ又ハ其生産ヲ容易ナラシムル爲ノ計畫案、製圖及發明案

七、日本ノ又ハ日本ノ支配下ニアル當局ノ手中ニアル聯合國側俘虜及被拘留者ニ關シ

(イ) 其ノ安全及福祉ニ付極メテ細心ノ注意ヲ拂フヘク右ハスル責任カ聯合國最高司令官ニ依リ引繼カルル迄ハ充分ナル食糧、住居、被服竝ニ醫療ヲ確保スル上ニ必要ナル行政的及補給的任務ヲ含ム

(ロ) 聯合國側俘虜竝ニ被拘留者ノ收容所又ハ其他ノ拘留所ハ其ノ設備、貯藏品、記錄、武器及彈藥ト共ニ直チニ俘虜及被拘留者ノ先任將校又ハ指定セラレタル代表者ノ指揮下ニ入ラシム

(ハ) 聯合國最高司令官ノ指示スル處ニ從ヒ俘虜及被拘留者ハ聯合國當局ニ引渡ヲナシ得ヘキ安全ノ地ニ輸送セララルヘシ

(ニ) 日本國大本營ハ本命令受領後(時間制限)以内ニ聯合國最高司令官ニ對シ聯合國側俘虜竝ニ被拘留者ノ所在地ヲ示シタル完全ナル名簿ヲ提出スヘシ

八、日本軍並ニ民間航空當局ハ一切ノ日本ノ陸海民航空機カ
追ツテ其ノ處理ニ關シ通告スル迄ハ地上、水上又ハ艦上
ニ留マルコトヲ保證スヘシ

九、聯合國最高司令官ヨリ何等カ指示アル迄ハ日本又ハ日本
支配下ニアル海軍艦艇及商船ハ其種類ヲ問ハス毀損又ハ
移動ヲ禁ス

十、日本及其支配下ニ在ル一切ノ文武官憲ハ聯合國ノ日本及
其ノ支配下ノ諸地域ノ占領ニ對シ援助ヲ與フヘシ

十一、大本營及ヒ當該日本官憲ハ聯合國占領軍諸司令官ヨリ
指示アリ次第日本臣民ノ所有スル一切ノ武器ヲ集收シ之
ヲ引渡ス様準備スヘシ

1112 昭和20年8月25日 重光外務大臣より
在満州国山田大使、在中國谷大使、
在タイ山本大使他宛（電報）

各地における終戦諸措置につき報告継続方訓令

本省 8月25日後5時50分発

合第六八六號（緊急）

戦争終結實施真相詳細引續キ御電報アリ度シ尙又戦争終結
ニ關スル我態度及措置ハ將來ノ我權益保持ニ關聯アルハ當

然ナルニ付御苦心ハ萬察スルモ此ノ上萬全ヲ期セラレ度シ

